

しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO. 26
(通巻157号)
平成30年(2018)
3月6日(火)

『平成29年度 学校評価アンケート』集計結果報告

校長 飯野 博史

今年度も残すところ、あと1か月となりました。音楽室からは「旅立ちの日に」が聞こえてきます。20日の卒業式、24日の修了式に向けて、学級、学年、学校がさらに一つにまとまるように指導していきます。今後ともご協力よろしくお願いいたします。

昨年11月に生徒、保護者、地域の方、教職員を対象とした「学校評価アンケート」を実施しました。保護者の方から203通の回答をいただきました。これは全家庭数の約95%にあたります。(昨年度は約87%) たくさんのご協力ありがとうございました。回答数の多さからも学校に対する期待を痛感いたしました。

厳しいご意見もいただきましたが、学校に対する応援と受け止め、来年度の教育活動に生かしてまいります。集計結果をもとに、地域代表の方からなる「学校評議員会(学校評価委員会を兼ねる)」を開催し、ご意見をいただきました。関係資料を添付いたしましたのでご覧ください。(添付した資料はホームページにも掲載します)

保護者の方からのご意見を一部紹介します。

【学校全体について】

・中学校という環境の中で娘は充実した時間を過ごさせていただいていることを普段の会話の中から感じております。これからもたくさんの経験を通じていろんなことにチャレンジし、学び育んでいってほしいと願っております。・子供たちがとても落ち着いているという印象をもっている。生徒が担任の先生を信頼し、安心して相談できる環境ができていると思う。・積極的に挨拶する生徒が多く、明るい空気を感じます。

【教育目標について】

・自発的に行動できる大人を目指すためにとてもよい教育目標だと思う。・大人としての土台となる中学生活を送るうえでよい教育目標だと思う。

【心の教育について】

・道徳教育に力を入れていることでいじめの問題等も耳にすることがなく、効果があると思う。・道徳授業を参観した際、テーマの選択が今の学年の子供に足りない「心」を意識したものであることにとっても感動しました。とても良い内容の話で授業も深まったようでした。・家庭教育も、いや家庭教育こそ一番大事と心し、日々の生活を整え、励んで参ります。

【学習指導等について】

・イングリッシュサマースクールは英語を楽しく学べて、前よりも英語が好きになったのでとても良かったです。ウィークエンドスクールをもう少し充実させてほしいです。・英語の授業が週4時間あるので、3年間を通して日常会話ができるレベルまで引き上げていただきたい。・授業中の小テスト、定期テストで低い点をとったら、補習や再テストをする等、もう少しサポートしてほしいです。本人もやる気がなく、親が伝えても改善されないで理解不足のまま先へ進んでしまっています。できるまで、理解するまで、その教科の先生による指導がほしいと思います。・それぞれの先生の授業にもよりますが、ただ教科書を開き、黒板の文字を写し、それを提出するというのではなく、積極的に生徒が知りたい、教えてほしいと思わず夢中になるような授業がもっともっとあると良いなと思います。

【体育・健康教育について】

・運動会、区連体などシーズンごとにうまく体力向上に取り組める環境があり、目標を立てやすく本人も積極的に次の目標に向けて自己啓発に励んでいるようです。・中学生の時期は体力が大きく伸びる時期です。せっかく校庭にランニングトラックがあるので、もっと日常から走らせても良いと思います。・健康状態をよく見ていただきながら無理ない活動ができていると思います。性教育への取組をお願いしたいです。・駅伝大会のような、クラス全体で少しヘビーな目標に取り組んで挑戦する意欲を鍛えたら良いと思います。

【特別活動について】

・学校行事では友達と協力して取り組み、一番生き生きとしている。クラス全員が積極的に参加するように今後も声をかけていただきたい。・部活動は先生方に熱心にご指導いただき感謝しております。・部活動の活動状況が、生徒が思っているような内容や開設状況ではない部もあるようです。先生方もお忙しいと思いますが、子供たちのやる気をつぶさないでいただけたらと思います。・先生方がお忙しかったり、設備面での制約があることは承知しているが、部活動が思うようにできなかったり、担当の先生となかなか会えなかったり…という状況は気の毒に思う。先生のご負担を増やさない形で、もっと子供が活動しやすい方法はないものでしょうか。

【学校生活全般について】

・困ったことがあったときに「それは先生に率直にそのまま相談してみたらどうかしら」と言うことがあります。その後「先生、助けてくれたよ」と子供がうれしそうに帰ってくると、ありがたいな、信じて託して良かったなと先生方のご指導に感謝いたします。・小中学校が連携するのは、小学校から安心して中学校に送ることができるので大変いいことだと思います。・世間で給食のことがいろいろと問題になっていますが、八中の給食がとても美味しく、子供たちは幸せだと思います。

【情報の発信、家庭・地域との連携について】

・少しのトラブルでも迅速に対応していただきました。先生の対応も、相談・連絡等とても話しやすい環境です。・碑文谷八幡のお祭り、すずめのお宿の盆踊りなど、地域と密接につながっていると思います。・子供からの話では不十分なときがあるため、学校日より、学年日より等、学校の様子を詳しく知ることができるのでとても助かります。

【特色ある教育活動について】

・「敬老の日の手紙」はぜひ続けてほしい。先日丁寧なお返事をいただいてありがたいと思った。素敵なお返事に心打たれました。・70周年記念式典のE組ハンドベルの演奏はとても素晴らしかった。パーシモンホールでの演奏を全ての生徒に見てもらいたかったです。・今年もぜひ「トイレ掃除」をやっていただきたいと思います。・E組との交流や命の授業、人権講演会もとても良い活動でありがたい。貴重な機会をいただいています。・「朝の読書」はとても良い時間だと思うのですが、もっと積極的に図書室を利用してほしいと思います。図書館で借りようとしたら予約がいっぱいで、何か月先という本もたくさんあるのでもったいないと感じています。

◎「3. 11を忘れない」講演会

八中では毎年、「3. 11を忘れない」と題して講演会を実施しています。東日本大震災を振り返るとともに、日頃の防災や命の大切さなどについて改めて考えるのがねらいです。

今年度は、防衛省 自衛隊東京地方協力本部から講師をお招きし「防災講話」として実施します。東日本大震災時の自衛隊の救出活動や自助・公助・共助について学習します。今回、八中の講演会のために新たなプログラムを作成してくださいました。

日時等は以下のとおりです。保護者、地域の方もお時間がありましたらぜひお出でください。

- ・日 時 3月7日（水） 1時30分～2時20分
- ・場 所 本校体育館

平成 29 年度

保護者による学校評価（全体）

☒ A 十分達成、ほぼ達成されている
☐ B 達成されていない、あまり達成されていない
☐ C わからない、無回答



平成29年度 目黒区立第八中学校 学校評価のまとめ

(平成30年3月1日現在)

評価項目	評価の結果	次年度の教育課程の改善点
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて 保護者 91% 生徒 93% 地域 88% 教員 96%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○学校への肯定的評価は、ここ数年高い数値を維持できている。隣接中学校希望入学制度による希望児童数の多さにも現れている。 ●「学校は、子どもの学力の定着・向上のために工夫した授業を行っている」の保護者評価が70%を切っている。	・生活規律、授業規律の徹底を図りながら、「ほめて育てる。認めて育てる。」指導を目指す。 ・日常のあらゆる場面で、生徒同士、生徒と教職員とのふれあいを大切にし、心を育てる教育を推進し「生徒が安心して通える学校」を目指す。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に全教員で取り組み、学力の定着・向上に努める。
	<学校評価委員の意見> ・授業見学をしたが、どの学年も落ち着いた雰囲気であった。学力向上・定着のため、今後も授業改善に取り組んでほしい。	
I 学校目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について 保護者 90% 生徒 91% 地域 83% 教員 100%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○教育目標や指導の重点は、保護者会や地域でも説明しており、生徒や地域の実態に合った適切な内容であると評価されている。 ○3年間の人権尊重教育推進校としての教育活動を継続して実践している。教育目標の1つ「考えて行う」に重点を置き様々な教育活動に取り組み、生徒の変容が見られる。 ●地域の理解度がやや低い。	・全校朝礼や行事などで教育目標に触れる機会を増やし、理解を高める。 ・次年度の重点目標を、引き続き「考えて行う」とし、生徒、保護者、地域に周知し、徹底して指導していく。 ・諸活動のねらいや目標を教育目標、とくに「考えて行う」と関連させ、教育活動に取り組む。
	<学校評価委員の意見> ・適切な教育目標だと思う。重点項目「考えて行う」を徹底して指導してほしい。	
II 心の教育について ・道徳の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について 保護者 89% 生徒 98%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○道徳の授業時間を確実に確保すると共に、指導内容の充実を図るために「考えて議論する」場面の設定を工夫した。生徒、保護者からも高い評価を受けた。 ●高い評価を受けてはいるが、道徳的実践力の向上に向け、道徳の授業内容のさらなる工夫や取組内容を考えていく必要がある。	・道徳の授業で考えたことを、日常生活において実践する機会を増やす。また、オリンピック・パラリンピック教育と関連づけ、障害者スポーツについての理解を深めさせたい。 ・人権尊重教育推進校としての成果を絶やすことなく、思いやりの心を育む。

教職員 100%	<学校評価委員の意見> ・道徳の授業の充実を図り、思いやりの心を育んでほしい。	
Ⅲ 学習指導 ・学力の定着・向上にむけた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 保護者 69%、生徒 86 % 教職員 100%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○生徒の少人数指導に対する評価が 91.3%と昨年度からさらに 5.7 ポイント向上した。 ○朝読書の取組について高い評価を受けている。一日の始まりを落ち着いた雰囲気で行うことができる。 ○体験活動については、前向きに取り組もうとする生徒が 90%以上、保護者からも 90%以上の高い肯定的な評価であった。 ●放課後学習教室と土曜補習教室に対する評価が低調であった。生徒の実態を踏まえた個別の声かけを徹底しきれなかった。 <学校評価委員の意見> ・学習が苦手な生徒に対する対応を具体的に考えてほしい。	・数学科と英語科の少人数指導の更なる定着を図る。他教科も成果を共有する。 ・I C T機器を活用して生徒の興味・関心を高め理解を深める授業や、2～5名程度の少人数による話し合い学習により深い学びが得られるような授業展開をさらに充実させる。引き続き成果と課題を全教員で共有して、授業改善に努める。 ・放課後学習教室と土曜補習教室では、生徒の実態に合わせた声かけを徹底し、学習習慣の定着と学力補充に向けて充実を図る。
Ⅳ 体育・健康教育について ・健康の促進、体力の向上に向けた取組の充実について 保護者 79% 生徒 85% 教員 88%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○「学校は子供の体力向上や健康の増進に積極的に取り組んでいる」の質問に対して、保護者の回答が約 6%上昇して 79%になった。 ●保護者の評価をさらに上げるため、学校での取組を、保護者の認識をより高めていく必要がある。 <学校評価委員の意見> ・オリンピック・パラリンピック教育と関連させて取り組んでほしい。	・保健体育科の授業や部活動、運動会等の体育的行事に積極的に取り組ませている。今後も引き続き内容を充実させていく。 ・栄養士による、食育の授業や健康教育を引き続き実施していく。 ・保健給食委員会を中心に、歯みがき運動を活発にしている。
Ⅴ 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、部活動の活性化などについて 保護者 90% 生徒 90% 地域 70% 教員 92%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○「学校行事や生徒会活動、部活動では、充実感を得ていますか」に対する生徒の肯定的評価は、昨年同様 90%と高い評価であった。 ○「学校行事や生徒会活動、部活動の充実に努めていますか」に対する保護者、教職員の肯定的評価も、90%と高い評価であった ●特別支援学級E組との交流活動（交流給食やE N J O Y 八中などのスポーツ交流等）を工夫・改善していく必要がある。	・学校行事、生徒会活動の活性化を図りながら、生徒の自治的能力の向上に努める。 ・夏季休業中を利用した近隣小学校6年生に対する部活動体験を継続する。外部指導員の確保に努め、部活動の充実に努める。 ・特別支援学級E組との交流活動を、生徒会主催から各学年との交流活動中心に変更し、定期的

	<学校評価委員の意見> ・E組との交流は、思いやりの心を育てるうえで大切な機会だと思う。日常的に交流できる場面が定着すると良い。	に行う。
VI 学校生活全般について		
<生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 保護者 88% 生徒 92% 地域 65% 教員 95%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○生徒は学校のきまりやマナーを守り、落ち着いて勉強していると 92%の生徒が回答し、保護者の肯定的評価も 7 ポイント上がり 88%と向上している。 ●「困ったときに、担任や学年の先生、養護の先生、スクールカウンセラーに気軽に相談できますか」に対する生徒の肯定的評価が 72%と低い。	・指導の重点を再確認し、挨拶、言葉遣い、身だしなみなどポイントを絞った共通実践項目を継続して指導していく。 ・日常の行動観察やアンケートを継続し、いじめの早期発見・早期対応に努める。また、人権教育や「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」などを通して、「いじめ根絶」を目指す。 ・特別な支援を必要とする生徒への対応について継続して研修を深め、関係諸機関と連携しながら個々の生徒に応じた支援を行っていく。 ・スクールカウンセラーとの1年生全員面談を継続するとともに、生徒が相談しやすい環境づくりを図る。
	<学校評価委員の意見> ・いじめについて組織的に取り組む様子がうかがえる。アンケートも大事だが、子どもたちの小さなサインを見逃さない感性を大切にしたい。 ・生徒たちが気軽に相談できる体制を整えることが必要である。スクールカウンセラーをさらに活用してほしい。	
<防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 保護者 84% 生徒 95% 教員 92%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○「あなたは、災害時に自分の安全を守るため、適切に行動することができていますか」に対する生徒の肯定的評価は、昨年同様に 95%と極めて高い。 ○安全教育の対応については、保護者の評価も 6 ポイント上昇した。 ●事件・事故等の対応防止に関して保護者の「わからない」という回答が昨年より 3 ポイント改善したものの、まだ 16%あり学校だより、学年だより等などの広報活動に課題がある。	・ICT支援員や外部機関と連携し、生徒の実態に合わせた情報モラル教室を実施するとともに、保護者啓発に努め、家庭の協力を得ていく。 ・様々な場面を想定した避難訓練等を計画的に実施し、ヘルメット着用など自ら適切な行動を取ることができるよう指導を継続して行う。また、自転車による交通事故防止のセーフティ教室を実施する。 ・災害教育、安全指導に関する学校の取組を、学校だより、学年だより等で多く発信していく。

	<学校評価委員の意見> ・防災に対する意識が高まっているようである。 ・「情報モラル」に対する指導の徹底を今後も続けてほしい。	
<幼・保・小・中連携> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 保護者 83% 教職員 96%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○「自ら学び考え、行動できる児童・生徒の育成」とテーマとして年1回ずつ小・中学校それぞれの各教科の授業を見合い、9年間を通した育成を目指し連携を図ることができた。 ○6年生対象の授業体験は昨年度より全教科実施し、部活動体験と併せ児童に好評であった。 ○「いじめ問題をめぐろ子ども会議」を通して、小学校6年生と中学校2年生の児童・生徒全員が小グループに分かれての話し合いを行った。より深い話し合いにするために、1回目の集まりでは中学校生活の紹介などを行い交流を深めるなど工夫した。 ●より中身の充実した連携活動を行ったが、工夫・充実が課題である。	・「小・中連携子ども育成プラン」を確認し、児童・生徒の交流やカリキュラムなどを含む連携を図り、9年間を通した子どもの育成を目指す。 ・来年度も小学生を対象に授業・部活動体験や「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」を実施し、児童と生徒の交流を充実させる。 ・教員同士がお互いの授業を参観し、研修会を通して課題を共有し連携を深めていく。
	<学校評価委員の意見> ・11月の「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」を見学したが、小・中学生の仲が良く、温かい雰囲気を感じた。来年度も工夫を加えながら継続して行ってほしい。	
Ⅶ 地域との連携 ・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA 活動の充実などについて 保護者 83% 地域 96% 教員 96%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○地域、教員の評価が 96%と高く、生徒会を中心に生徒が積極的に地域行事に参加している。 ●保護者の肯定的評価が 83%であり、90%以上になるように、ホームページ、学校だより、学年だよりなどを有効に活用し、情報発信を積極的に行う必要がある。	・来年度も信頼される学校を目指し、様々な機会を利用して、学校全体で情報を発信し、保護者・地域との連携を深める。 ・「見守りメール」は好評であり、登録率 100%を目指し取り組む。未登録者を確認し、保護者に再度登録への依頼をしていく。 ・地域行事への参加、地域人材の活用など、積極的に推進する。
	<学校評価委員の意見> ・学校だより等で情報は伝わってくる。保護者も受身ではなく、自分から学校の様子を知り、かかわろうとする態度が必要ではないか。	

